

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. アドミッションポリシーを各入試募集要項に掲載する。	1. 指標 : ①一般入試、センター利用入試、②AO入試、③帰国生徒入試、④スポーツ選抜入試、⑤外国人留学生入試、⑥その他の入試(高等部、指定校、協定校・提携校、継続校、海外学部協定校推薦)、⑦編入学試験、以上7つの各入試要項にアドミッションポリシーを掲載した点数 評価基準 : 7～6点に掲載…評価A、5～4点…評価B、3～2点…評価C、1点以下…評価D (2012年度までに達成を目指す)	B			
2. 募集要項に掲載したアドミッションポリシーに従い、一般入試、センター利用入試、AO入試、帰国生徒入試、スポーツ選抜入試、外国人留学生入試、その他の入学試験(高等部、指定校、協定校・提携校、継続校、海外学部協定校推薦)、編入学試験について、それぞれ募集定員を設定し、その人員を確保する。	2. 指標 : ①一般入試、センター利用入試、②AO入試、③帰国生徒入試、④スポーツ選抜入試、⑤外国人留学生入試、⑥その他の入試(高等部、指定校、協定校・提携校、継続校、海外学部協定校推薦)、⑦編入学試験、以上7つの各入試の募集人員を満たした点数 評価基準 : 7～6点が充足…評価A、5～4点…評価B、3～2点…評価C、1点以下…評価D (2012年度までに評価Bを目指す)	B			
3. 過去4年間の収容定員に対する在籍学生数比率を平均1.21～1.30とする。	3. 指標 : 過去4年間の収容定員に対する在籍学生数比率 評価基準 : 1.2以下…評価A、1.21～1.30…評価B、1.31～1.40…評価C、1.41以上…評価D (2013年度に評価Bを目指す)	A			

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【国際学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名				300	300	
指標2	志願者総数	人				2,562	3,299	
指標3	合格者数	人				498	686	
指標4	入学者数	人				283	325	
指標5	志願者倍率	倍				8.5	11.0	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍						入学者数÷入学定員
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%				26.9%	32.3%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名				300	600	
指標9	在籍学生数	人				283	607	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%				94.3%	101.2%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人				(0)	(0)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名				—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%				—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人				1		

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

(その他の指標データ)

入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】

地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合

科目等履修者の入学者数

聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	7つのうち5つの各入試要項にアドミッションポリシーを掲載した。
小項目5.0.2	2011年度「一般入試」による入学者数(105名)は2010年度入試結果(76名)と比べると着実に改善され、40%増を達成している。
☆小項目5.0.3	2011年度入試では一般入試及びセンター入試の歩留率の予測がほぼ的中し、入学定員超過率が1.08であった。そのことにより収容定員に対する在籍学生数比率は1.01であり、適正に管理できた。
小項目5.0.4	入試検討委員会を4回開催し、当該年度の反省点と次年度に向けての改善点を検討した。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	2012年度入試以降も継続して各入試要項にアドミッションポリシーを掲載する。
小項目5.0.2	2012年度入試では過去2年間のデータを参照して、歩留率の予測をさらに精密化し、「一般入試」、「スポーツ推薦入試」の合格者数に反映させることをめざす。
☆小項目5.0.3	2012年度入試では過去2年間のデータを参照し、歩留率の予測をよりの的確に行い、入学定員超過率1.01を目標とする。
小項目5.0.4	入試検討委員会は入試の様々な課題を改善するのにとっても有効な会議であった。2012年度以降も継続して実施する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	2011年度の入学者数(325名)を見る限り、4年間で1.0倍の定員確保は比較的容易であろう。今後は更なる質の向上を図る必要がある。
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○入試方法の多様化が進められた結果、一般入試入学者比率は32.3%と全学の目安である6割の約半分程度にまで低下するという非常に特色ある学生募集を行っています。今後は、追跡調査等を活用した分析により、その是非を検討することが求められます。

【学内委員】

○学生の受け入れ方針としてアドミッションポリシーが定義され、入試要綱の多くに掲載されています。学生の受け入れ方針の公示という面で進んでいると評価できます。

○進捗評価のA、B、C、Dの段階に分けについて、あらかじめ評価基準が示されているので進捗評価の客観性が高い。

○現状の説明や効果が上がっている事項など、説明が丁寧であり、わかりやすい。

○アドミッションポリシーをきちんと定め、それに基づき入学者選抜も行い、定員管理も行っている。さらに、定期的な検証も行っている。なお、HPの内容 (http://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html) をもう一度精査願いたい。

○アドミッション・ポリシーは明確です。伸長させる方策にも記述されているように⑥⑦の入試についても明示される必要があるでしょう。なお、現在ではホームページでの各種公表が大前提であり、欠かすことの出来ない最優先の手段です。大学基準協会の基盤評価でもホームページ等とされていますので、言及してください。

○小項目5.0.2は、大学基準協会は「学生募集、入学選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適正等を適切に判定するものであること」を留意すべき事項の基盤評価としています。従って、募集人員は本項目に適合しません。また、学生募集方法が適切かどうかについて応えようとしているようですが、文意がつかめません。

○定員管理、検証は適切に行われていることが伺えます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○5.0.1に記載したアドミッションポリシーと、HPの内容 (http://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html) を次年度報告までに精査する。

○⑥その他の入試（高等部、指定校、協定校・提携校、継続校、海外学部協定校推薦）、⑦編入学試験のアドミッションポリシーについて検討する。次年度報告では、アドミッションポリシーの公表に関して、HPに掲載することを記載する。

- ★○5.0.2は募集人員ではなく公正な機会をどう保証するか、どう能力適正等を適切に判定するかについて次のとおり記述する。各入学試験においては、それぞれ募集要項を作成し頒布し、またHPでも広く公示している。入試結果については、学部入試実行委員会にて厳正に検討し教授会にて最終決定し、合否結果については郵送するとともにHPにて発表している。また入試部を通じて志願者数、受験者数、合格者数を公表している。